

長月を迎えて

分所長 高木敏彦

例年に増して暑かった8月でしたが、今月に入っても残暑厳しい毎日です。

先月末の土曜日に本苑で夏季学級が行われました。碧南分所の蒲生眞矢さんと豊田支部の天内ほかさんが一生懸命に子供たちのために準備をして頂き楽しい一日を過ごしました。中でも、ボッチャは異常に盛り上がり真剣に競い合う子供たちの姿に腹を抱えて大笑いをしました。最高得点はなんと野田ももかちゃん(2歳)が記録しました。参加した子供たちには楽しい思い出ができたことと思います。青年部の人達に感謝です。

9月末の27日(土)にはお松の草刈り作業を行いますのでお手伝いをお願いします。

惟神の道 言霊の活用

出口 王仁三郎

人間は宇宙の縮図であつて天地の移写である。故に人体一切の組織の活用がわかれば、宇宙の真相が明瞭になってくるのである。

「ことわざにいう『灯台下暗し』と。吾人の体内にて間断なく天のみ柱なる五大父音と、国のみ柱なる九大母音が声を発して生理作用を営んでいる」とく、宇宙にもまた無限絶大の声音が鳴り鳴りて鳴り余りつつあるのである。しかして大空は主として、五大父音を発声し、地上および地中は主として九大母音が鳴り鳴りて、鳴り足らざる部分は天空の五大父音をもつてこれを補い、生成化育の神業を完成しつつあるのである。天空もまた、大地の九大母音の補いによってよく安静を保ち、光温を生成化育しつつあるのである。

またこの天地父母の十四大音声の言霊力によってキシチニヒミイリキの火の言霊を生成し、またケセテネヘメエレアの水の言霊と、コソトノホモヨロアの地の言霊と、クスツヌフムユルウの結(すなわち神霊)の言霊を生成し、天地間の森羅万象を生き働かしめつつ、造化の神業が永遠無窮に行われているのである。試みに天空の声を聞かんとすれば、深夜心を鎮めて左右の人差指を耳に堅く当ててみるとたしかにアオウエイの五大父音を歴然と聞くことができるのである。

私がこんなことを言つても、現代の学者は迂遠(うえん)極まる愚論と一笑に付し去るであらうが、身体を循環する呼吸器音や食道管や胃腸の蠕動音(ぜんどうおん)がそれである。しかるにその音声をもつて宇宙の音響と見なすなど、実にあきれて物が言えぬと笑われるであらう。いづくぞ知らん、人間の体内に発生する音響そのものは、宇宙の神音霊声なることを、今医家の使用する聴診器を応用して、心臓部より上半身の音響は、5大父音が主として鳴り響き、以下の内臓部の音響は九大母音鳴り渡り、その火水地結の音声の互いに交叉運動せる模様を聞くことができるのである。人体にしてこれらの音声休止するときは、生活作用の廃絶したときである。宇宙もまたこの大音声休止せば、宇宙はここに壊滅してしまうのである。地中の神音は人間下体部の音響と同一である。ただ宇宙と人体とは大小の区別あるをもつて、その音声にも大小あるまでである。大声耳裡(じり)に入らず、故に天眼通、いわゆる透視をなすに瞑目することく宇宙の大声を聞かんとすれば、第一に閉耳するの必要があるのである。

神典にいう『鳴り鳴りて鳴り余れる処(ところ)一所あり、鳴り鳴りて鳴り足らざる処(ところ)一所あり』と、これ大空(たいくう)および大地の音声活用の神理を示されたものである。聖書にいう『太初

(はじめ)に道(ことば)あり云々』と、これによりて宇宙言霊のいかなる活用あるかを窺知(きち)すべきである。

主な行事予定

- 9月11日(木) 全国一斉平和祈願祝詞奏上
- 9月14日(日) 午後1時半より 碧南分所月次祭 担当第3班
- 9月21日(日) 午前10時より 三河本苑月次祭
- 9月27日(土) 早朝開始 本苑お松の草刈り
- 9月28日(日) 三河本苑にて 宣伝使・宣伝使になるための研修会
- 10月5日(日) 午後1時半より 碧南分所月次祭 担当第1班
- 10月12日(日) 16時30分開始 歌祭り 綾の郷にて
- 10月19日(日) 午前10時より 三河本苑大祭・秋季合同慰霊祭
- 冠香句 冠句題「三河から・支え合う・さりげない」 香句題「天の恩」 締切9月21日

9月の誕生者

おめでとつございます！

- 市古美弥子 岡本勝 4日 杉浦陽子 堀江あゆみ 9日 奥谷久美子 三浦幹太郎 10日 鈴木さやか 18日 高橋英彦 19日 萩原芳美 20日 角谷満代 24日 三浦晃子 28日 蒲生和高 30日